

(仮称) 三戸プロジェクト 環境影響予測評価実施計画書の概要

2023年10月26日(木)
京浜急行電鉄株式会社

目次

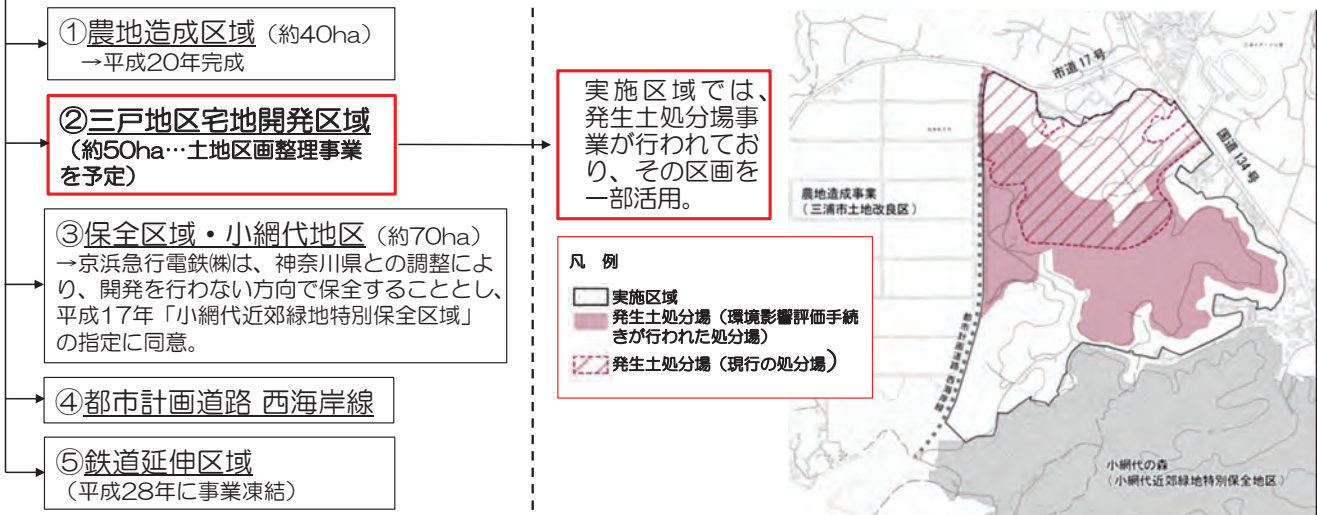
1. 対象計画の背景・目的・経緯
2. 計画概要
3. 工事計画
4. 工事中の環境保全対策
5. 環境特性に基づき配慮しようとする内容
6. 環境影響評価の項目選定
7. 環境影響評価の調査・予測・評価の手法
8. 先行調査の活用についての妥当性の確認

1. 対象計画の背景・目的・経緯

3

背景

昭和40年代から、本事業の実施区域を含む「三浦市三戸・小網代地区」（約160ha）は、土地利用のあり方について検討されてきています。
平成7年には、神奈川県・三浦市・京浜急行電鉄㈱の三者により、5つの土地利用計画に沿って事業が行われることになっています。



4

実施区域は、三浦市都市計画マスタープランで示す地域交流ゾーンのうち、「にぎわいの街を形成する交流ゾーン（三崎口駅～引橋周辺）」に含まれています。

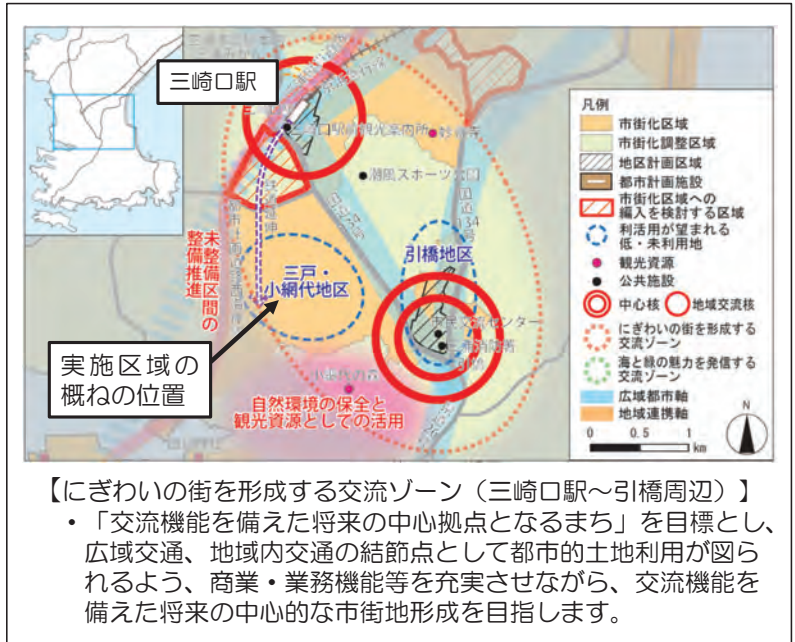
また、三浦市都市計画マスタープランにおいて、今後の利活用が望まれる「低・未利用地」に位置付けられています。



三崎口駅に近接する実施区域において、三浦半島南部の玄関口としてふさわしい賑わいを創出する街づくりを行うことを目的として、土地区画整理事業を行います。



本事業の実施後の土地利用は、教育施設、住宅等が想定されており、三浦市における持続可能で活力ある都市づくりに貢献することができるものと考えています。



出典：「三浦市都市計画マスタープラン」（令和元年12月 三浦市）

全体スケジュール（想定）

主な手続き等の内容		2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
手続き関連	環境アセスメント	現在	■	■	■		
	土地区画整理事業認可※		■	■	■		
	都市計画の変更※		■	■	■		
	三浦市まちづくり条例※			■	■		
基盤整備工事					■	■	■

※ 土地区画整理事業認可、都市計画の変更及び三浦市まちづくり条例のスケジュールについては、今後行う県・市との調整によります。

2. 計画概要

7

計画概要

名称	(仮称) 三戸プロジェクト
種類	土地区画整理事業
面積	約50.18ha
位置	神奈川県三浦市初声町三戸及び三崎町小網代地内

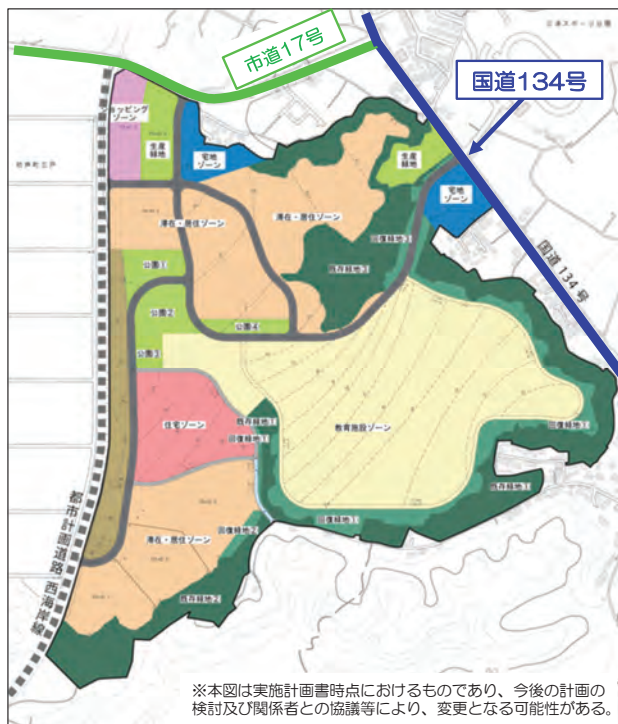
事業者	名称	京浜急行電鉄株式会社
	住所	横浜市西区高島1丁目2番8号

8

実施区域の位置 【実施計画書 別添2-2.1 P5~9】



施設配置計画 【実施計画書 別添1-1 P.3】

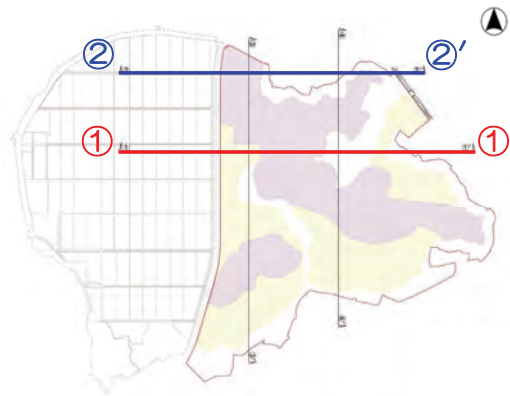


凡例

- | | | | |
|--|-----------|--|----------|
| | 実施区域 | | 生産農地 |
| | 教育施設ゾーン | | 公園 |
| | ショッピングゾーン | | 回復緑地 |
| | 宅地ゾーン | | 幹線道路 |
| | 住宅ゾーン | | 主要道路 |
| | 滞在・居住ゾーン | | その他道路 |
| | 既存緑地 | | 西海岸線沿い法面 |

※本図は実施計画書時点におけるものであり、今後の計画の検討及び関係者との協議等により、変更となる可能性がある。

【造成計画（平面図）】

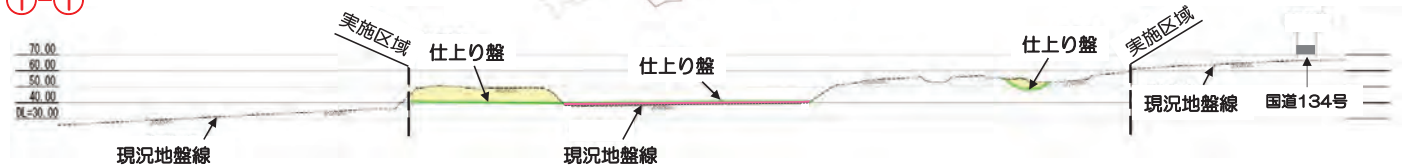


凡例

色別	名称
	切土
	盛土
	仕上り盤

【造成計画（断面図）】

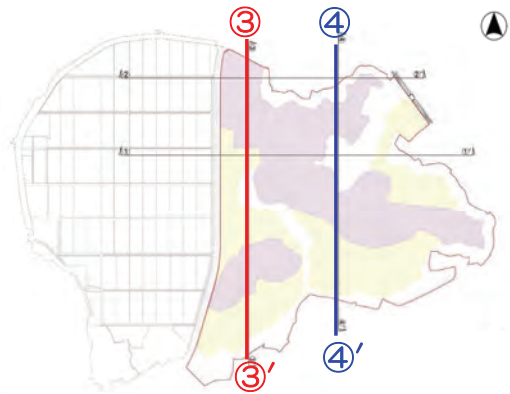
①-①'



②-②'



【造成計画（平面図）】



凡例

色別	名称
	切土
	盛土
	仕上り盤

【造成計画（断面図）】

③-③'



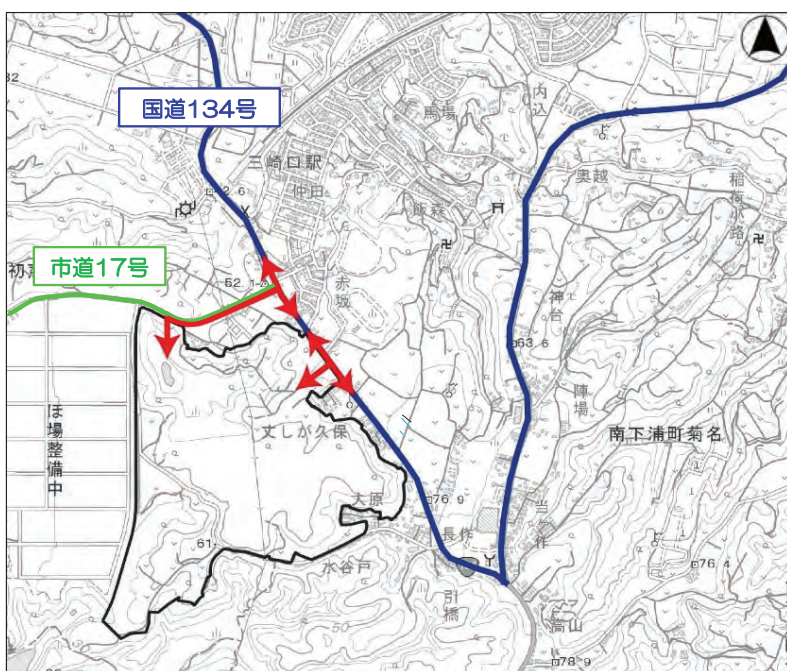
④-④'



【対象事業の規模】

項目		面積 (ha)
実施区域	開発事業用地	40.93
	地権者・公共移管用地	9.25
合計		50.18

供用後車両走行ルート 【実施計画書 別添3-3-5 P.107】



凡例

- 実施区域
- ← 関係車両走行ルート
- 主要幹線 (国道134号)
- 市道17号

3. 工事計画

15

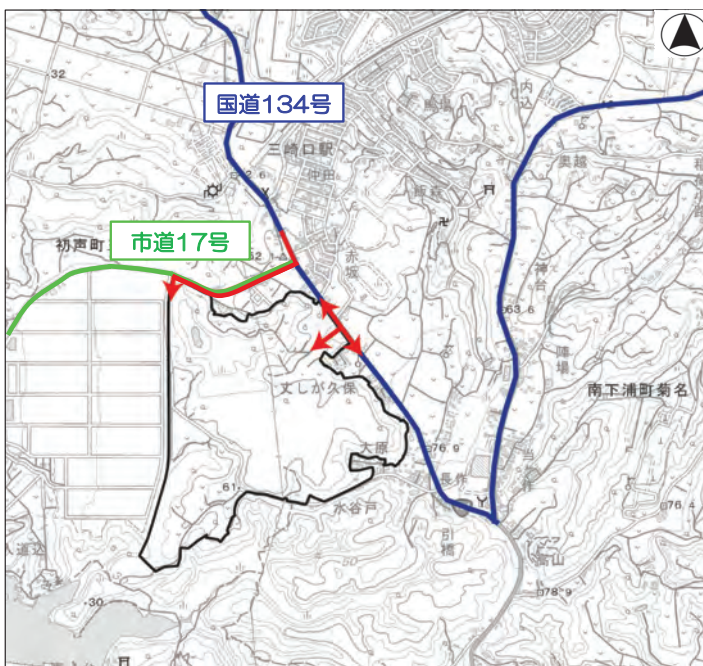
工事概要 【実施計画書 別添3-2.2 P.91】

全体で約3年程度を予定

工事内容	2026年	2027年	2028年
造成工事	■		
インフラ工事	■		
道路工事		■	
緑地・公園工事			■

16

項目	工事内容
造成工事	ブルドーザ、バックホウ、ダンプ、振動ローラー等により、計画地内の土砂移動を行い、盛土、切土等を行います。
インフラ工事	バックホウ、ダンプ、ラフタークレーン、ユニック車等により、排水管路、上水道、電気及びガス等の地下埋設等の整備を行います。
道路工事	ブルドーザ、バックホウ、ダンプ、振動ローラー、アスファルトフィニッシャー等により、道路整備を行います。
緑地・公園工事	ブルドーザ、バックホウ、振動ローラー等により、緑地、公園整備を行います。



凡 例

- 実施区域
- 工事用車両走行ルート
- 主要幹線（国道134号）
- 市道17号

4. 工事中の環境保全対策

19

工事中の環境保全対策 ～大気汚染～ 【実施計画書 別添3-2.3 P.96,97】

項目	環境保全対策
大気汚染	<ul style="list-style-type: none"> • 工事区域の周囲に仮囲いを設置します。 • 必要に応じて散水の実施、粉じん飛散防止シートの設置等、粉じんの飛散防止に努めます。 • 工事用車両の走行による粉じんの飛散防止のため、工事区域の出口にタイヤ洗浄設備を設け、タイヤ等の洗浄を行うとともに、出入口付近の道路の清掃を適宜実施します。 • 施工方法や手順を十分検討し、建設機械、工事用車両が一時期に集中しないよう作業の平準化に努めます。 • 建設機械は、可能な限り最新の排出ガス対策型建設機械を使用します。 • 工事用車両は、排出ガス規制適合車を使用します。 • 建設機械の不必要なアイドリングの防止を徹底します。 • 工事用車両の運転者に対する交通安全教育を日常的に行うとともに、安全運転の励行、過積載の禁止、アイドリングストップ等のエコドライブの励行を徹底させます。 • 建設機械、工事用車両の定期的な整備・点検を行い、故障や異常の早期発見に努めます。 • 工事作業員の通勤にあたっては、公共交通機関を利用するよう指導します。

項目	環境保全対策
水質汚濁	<ul style="list-style-type: none"> 実施区域から発生する濁水は、調整池及び沈砂池に一時貯留し、土粒子を十分に沈降させたのち、上澄み水を放流します。
騒音 ・振動	<ul style="list-style-type: none"> 工事区域の周囲に仮囲いを設置します。 施工方法や手順を十分検討し、建設機械、工事用車両が一時的に集中しないよう作業の平準化に努めます。 建設機械は、可能な限り低騒音・低振動型の建設機械の使用に努めます。 建設機械の不必要なアイドリングの防止を徹底します。 工事用車両の運転者に対する交通安全教育を日常的に行うとともに、安全運転の励行、過積載の禁止、アイドリングストップ等のエコドライブの励行を徹底させます。 建設機械、工事用車両の定期的な整備・点検を行い、故障や異常の早期発見に努めます。 工事作業員の通勤にあたっては、公共交通機関を利用するよう指導します。

項目	環境保全対策
廃棄物 ・発生土	<ul style="list-style-type: none"> 実施区域内で切土盛土の調整を図ることにより、土砂の場外処分及び場外からの搬入を行わない計画とします。 工事中に発生する特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木くず）は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年法律第104号）に基づき、現場内での分別・保管を徹底します。 コンクリート塊などは可能な限り現場内での利用に努め、現場内での利用が困難な木くずについては場外に搬出し、中間処理施設等で適切に処理・再資源化を行います。 工事中に発生する建設廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（昭和45年法律第137号）等に基づき、発生抑制や減量化に努めます。 発生した産業廃棄物等は分別を徹底し、再資源化・縮減に努めます。 コンクリート型枠材非木材系型枠を採用し、建設資材は、工場先行組立、プレキャスト製品等とする等、現場での廃棄物発生量を低減します。

項目	環境保全対策
植物 ・動物	<ul style="list-style-type: none"> 新規入場する作業員に対し、周辺に生育生息する貴重な動植物に関する教育を必要に応じて実施し、工事中に貴重種を発見した場合には、速やかに代理人や監督員へ連絡するよう指導します。 野外照明については、集光性昆虫に配慮した電灯（LED等）を採用します。
安全	<ul style="list-style-type: none"> 工事用車両の出入り口には交通誘導員を配置し、歩行者の安全確保、出入り口付近での渋滞発生抑制に努めます。 施工方法や手順を十分検討し工事用車両が一時的に集中しないよう作業の平準化に努めます。 工事作業員の通勤にあたっては、公共交通機関を利用するよう指導します。 歩行者、自転車、一般車両等の優先の徹底、交差点進入時、右左折時における歩行者（児童を含む）、自転車等の安全確認の徹底、交通規則の遵守等の交通安全教育を工事用車両運転者に対して徹底します。

5. 環境特性に基づき配慮しようとする内容

実施区域における環境の特性

- ・実施区域は三崎口駅から近く、国道134号の沿線の三浦市が「市の中心部」として整備を進めている引橋地区にも近いエリアに位置します。
 - ・西側には県営ほ場整備事業によって整備された農地が広がり、南側にはみどりの保全拠点として位置づけられている小網代近郊緑地特別保全区域、さらには南西部に蟹田沢ピオトープもあることから周辺には自然豊かな環境が広がっています。
- 上記の周辺環境の現状を踏まえて、対象事業の実施にあたって配慮事項を以下に示します。

配慮しようとする内容

(1) 土地利用計画における配慮

- ・発生土処分場として整備された区画を一部活用した土地区画整理事業とすることで、斜面林などの自然環境及び地形形状を可能な限り改変を回避する計画としました。
- ・一部改変される樹林地については、事業地内に適正な緑地を配置することで自然環境を復元し、地域の住民が自然環境と触れ合える環境を創出する計画としました。
- ・南西部に位置する蟹田沢ピオトープ及び事業地南側の斜面林を保全することで、南側に隣接する小網代の森との連続性を確保する計画としました。
- ・道路交通については、複数箇所による周辺道路へ接続する計画とし、渋滞を緩和することで、騒音や振動、大気汚染の発生を抑制する計画としました。

(2) 事業実施にあたっての配慮（供用後）

- ・廃棄物については、再利用・再資源化に努めます。
- ・汚水排水は、浄化槽にて適正に処理した上で放流する計画とします。

6. 環境影響評価の項目選定

環境影響評価項目 ～大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音・低周波音、振動、地盤沈下～

【実施計画書 別添4.1(2) P.110】



環境影響要因		工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用		
		造成工事等	建設機械の稼働	工用車両の走行	敷地の存在	施設の供用	関係車両の走行
評価項目	評価細目						
大気汚染	大気汚染	二酸化硫黄					
		一酸化炭素					
		浮遊粒子状物質		●	●		●
		二酸化窒素		●	●		●
		粉じん	●				
		その他					
水質汚濁	水質汚濁	生活環境項目	●				
		健康項目					
		その他					
土壌汚染	土壌汚染						
騒音・低周波音	騒音		●	●		●	
	低周波音						
振動	振動		●	●		●	
地盤沈下	地盤沈下						

27

環境影響評価項目 ～悪臭、廃棄物・発生土、電波障害、日照障害、反射光、気象、水象、地象～

【実施計画書 別添4.1(2) P.110】



環境影響要因		工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用		
		造成工事等	建設機械の稼働	工用車両の走行	敷地の存在	施設の供用	関係車両の走行
評価項目	評価細目						
悪臭	悪臭						
廃棄物・発生土	廃棄物	●					
	発生土						
電波障害	テレビジョン電波障害						
日照障害	日照障害						
反射光	反射光						
気象	気象						
水象	河川	●			●		
	地下水	●			●		
	海域						
地象	傾斜地	●					
	地形・地質						

28

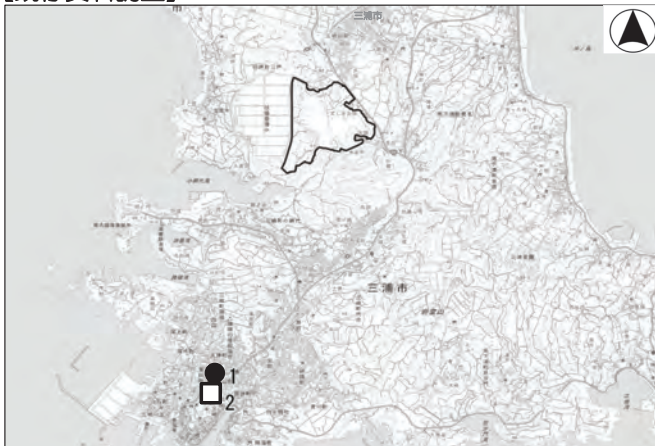
評価項目	評価細目	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用		
		造成工事等	建設機械の稼働	工事用車両の走行	敷地の存在	施設の供用	関係車両の走行
植物・動物・生態系	植物	●			●		
	動物	●	●	●	●	●	●
	水生生物	●	●	●	●	●	●
	生態系	●	●	●	●	●	●
文化財	文化財	●					
景観	景観				●	●	
レクリエーション資源	レクリエーション資源			●			●
温室効果ガス	温室効果ガス		●	●			●
地域分断	地域分断						
安全	危険物等						
	交通			●			●

7. 環境影響評価の調査・予測・評価の手法

調査項目	調査方法	調査時期
大気汚染の発生源の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 	
大気汚染評価物質の濃度等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 	<ul style="list-style-type: none"> SPM、NO₂: 連続した7日間の調査を年4回（季節ごとに各1回） 降下ばいじん: 連続した1ヶ月の調査を年4回（季節ごとに各1回）
	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査（先行調査） （SPM、NO₂、降下ばいじん） 	
地形及び工作物の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 必要に応じ現地踏査 	
気象の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の連続観測
	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査（先行調査） （風向、風速、気温、湿度） 	

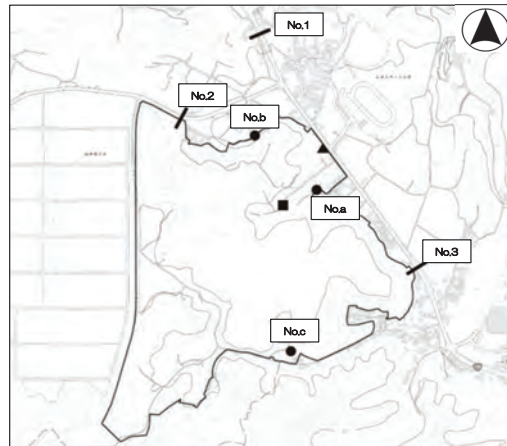
調査地点

【既存資料調査】



- 凡 例
- 実施区域
 - 一般環境大気測定局（三浦市城山）
 - ダイオキシン類似測定地点

【現地調査】



- 凡 例
- 実施区域
 - 一般環境大気・気象調査地点
 - 道路沿道大気調査地点
 - 降下ばいじん調査地点 (No.a～c)
 - 道路沿道大気予測地点 (No.1～3)

調査項目	調査方法	調査時期
土地利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 	
水質汚濁の影響を受ける利水の状況		
水質汚濁の発生源の状況		
水質汚濁評価物質等の濃度等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査（先行調査）（浮遊物質質量および濁度） 	<ul style="list-style-type: none"> 北川及び蟹田沢の3地点（位置は次スライド参照） 平水時に2地点を年12回（月1回） 降雨時に3地点を2回
気象の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 	
水象の状況		
地形・地質および耕作物の状況		

調査地点

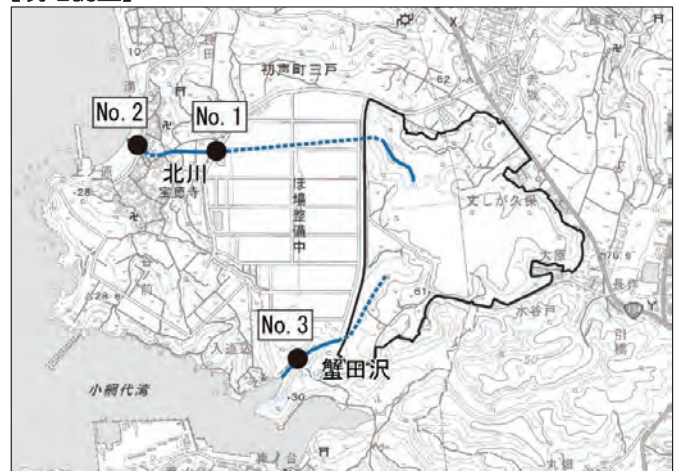
【既存資料調査】



凡例

- 実施区域
- 河川水質測定地点
- 河川
- 河川（暗渠）

【現地調査】



凡例

- 実施区域
- 水質調査地点 (No.1～3)
- 河川
- 河川（暗渠）

調査項目	調査方法	調査時期
地形及び工作物の状況 地形及び地質の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査 現地踏査 	<ul style="list-style-type: none"> 入手可能な最新の資料等
土地利用の状況		
騒音及び低周波音、振動の発生源の状況		
騒音レベル及び低周波音の音圧レベル、振動レベルの状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 現地調査（先行調査） （騒音レベル、振動レベル） 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音、振動が年間平均と想定できる平日を選定し測定（24時間）

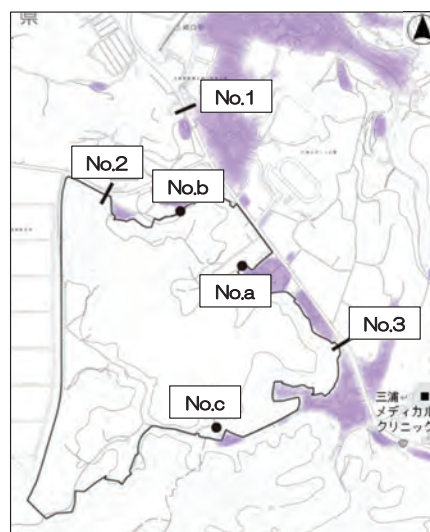
調査地点

【既存資料調査】



- 凡例
- 実施区域
 - 評価区間
起点 終点

【現地調査】



凡例

- 実施区域
- 一般環境騒音・振動調査地点 (No.a～c)
- 道路交通騒音・振動騒音調査地点 (予測地点) (No.1～3)
- 住居等
- 医療機関

調査項目	調査方法
再使用・再生利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの）
廃棄物の中間処理の状況	
最終処分の状況	

調査項目	調査方法	調査時期
土地利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査 現地踏査 	<ul style="list-style-type: none"> 入手可能な最新の資料等
河川の利水の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 	
降水量の状況		
河川等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査 現地踏査 	<ul style="list-style-type: none"> 入手可能な最新の資料等 ※水質汚濁調査の流量結果も活用
地下水の状況	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査（先行調査） 	<ul style="list-style-type: none"> 実施区域うち1地点において連続する1年間
地形及び地質の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 	

調査地点

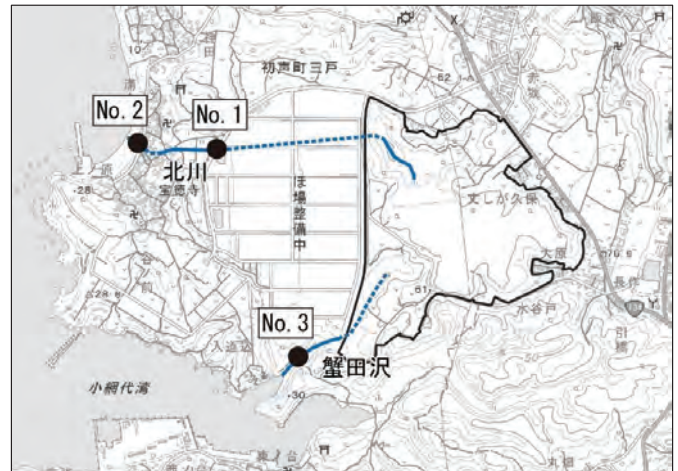
【既存資料調査】



凡例

- 実施区域
- 河川水質測定地点
- 河川
- 河川（暗渠）

【現地調査】※水質汚濁の調査地点図



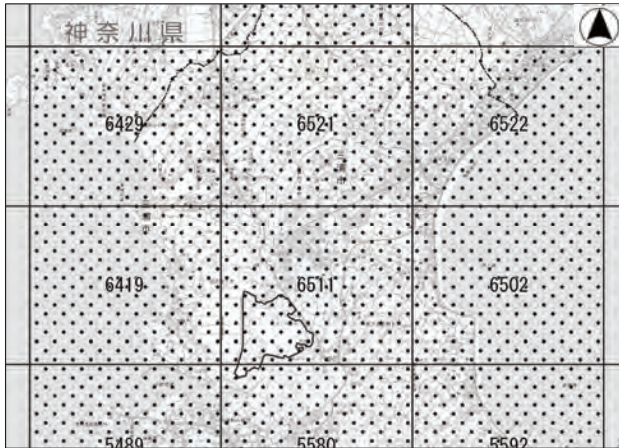
凡例

- 実施区域
- 河川水質測定地点（流量含む）
- 河川
- 河川（暗渠）

調査項目	調査方法	調査時期
土地利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 既存資料調査 • 現地踏査 	<ul style="list-style-type: none"> • 入手可能な最新の資料等
地下水及び湧水の利水の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 	
地下水構造物の状況		
降水量等の状況		
河川の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 既存資料調査 • 現地調査 	<ul style="list-style-type: none"> • 入手可能な最新の資料等 ※水質汚濁調査の流量結果も活用
地下水及び湧水の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 現地調査（先行調査） 	<ul style="list-style-type: none"> • 実施区域うち1地点にて1年間
地形及び地質の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 既存資料調査（入手可能な最新のものの） 	

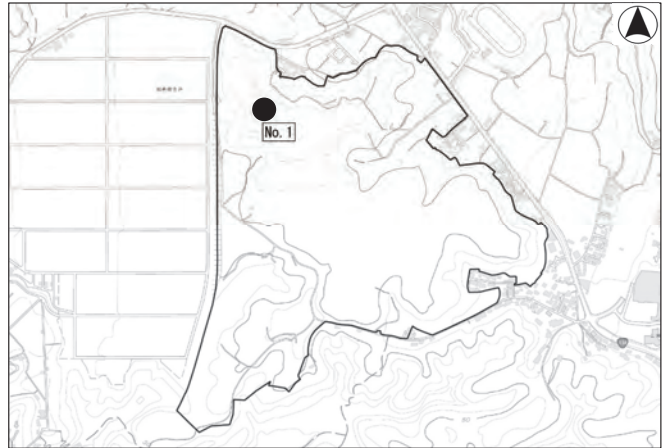
調査地点

【既存資料調査】



- 凡例
- 実施区域
 - 地下水質調査実施メッシュ

【現地調査】

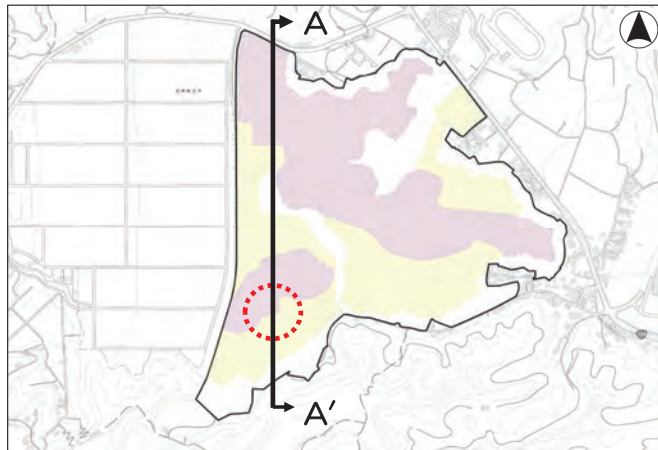


- 凡例
- 実施区域
 - 地下水質調査地点(No.1)

調査項目	調査方法	調査時期
土地利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存資料調査 ・ 現地調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入手可能な最新の資料等
傾斜地の崩壊が危惧される土地の分布及び崩壊防止対策等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存資料調査 ・ 現地調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入手可能な最新の資料等
降水量の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 	
地下水及び湧水の状況		
地形及び地質の状況		
植物の生育状況		

予測地点

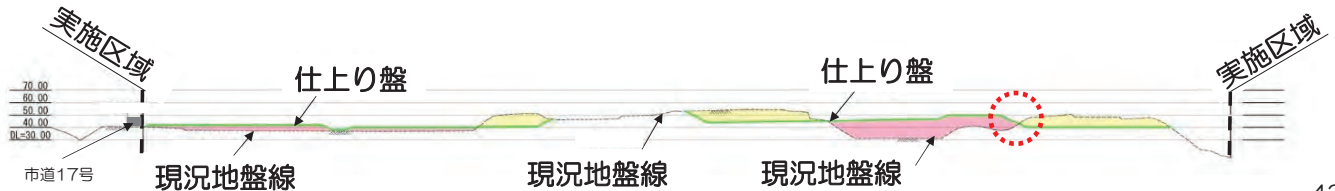
【平面図】



凡例

- 実施区域
- 予測対象箇所
- 切土
- 盛土
- 仕上り盤

【A-A' 断面図】



調査項目	調査方法	調査時期
土地利用の状況	・既存資料調査（入手可能な最新のもの）	
植物相	・既存資料調査（入手可能な最新のもの）	
	・現地調査（先行調査） （種子植物、シダ植物等）	・早春、春季、夏季、秋季の4回 踏査ルートを設定し目視観察 により位置等記録を行う
植生	・既存資料調査（入手可能な最新のもの）	
	・現地調査（一部、先行調査） （現存植生、群落構造）	・早春、春季、夏季、秋季の4回 現存植生図、群落構造図の作 成を行う
重要な植物種および 植物群落	・植物相及び植生の調査結果を活用し、整理・解析を行う	
生育環境との関わり	・既存資料調査（入手可能な最新のもの） ・植物相及び植生の調査結果を活用し、整理・解析を行う	
緑の量	・植物相及び植生の調査結果を活用し、整理・解析を行う	
対象事業の計画の状況	・事業計画等により把握する	

調査項目	調査方法	調査時期
土地利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 	
動物相	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 	
	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査（一部、先行調査） （直接観察法） 	<ul style="list-style-type: none"> 哺乳類 4回（春夏秋冬） 鳥類 6回（12～2月2回、3～4月1回、5～7月で2回、8～10月で1回） 爬虫類 3回（夏2回秋1回） 昆虫類 6回（4～5月で2回、6月で2回、7～8月で1回、9～10月で1回） 両生類、その他無脊椎動物 3回（春夏秋）
重要な種、個体群及びその生息地	<ul style="list-style-type: none"> 動物相の調査結果を活用し、整理・解析を行う 	
生息環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 動物相の調査結果を活用し、整理・解析を行う 	
対象事業の計画の状況	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画等により把握する 	

調査項目	調査方法	調査時期
土地利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 	
水生生物相	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 	
	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査（先行調査） （投網、タモ網、コドラート採取） 	<ul style="list-style-type: none"> 魚類、底生動物、付着藻類 4回（春夏秋冬）
重要な種、個体群及びその生息地	<ul style="list-style-type: none"> 水生生物相の調査結果を活用し、整理・解析を行う 	
生息環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 水生生物相の調査結果を活用し、整理・解析を行う 	
対象事業の計画の状況	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画等により把握する 	

【生態系】

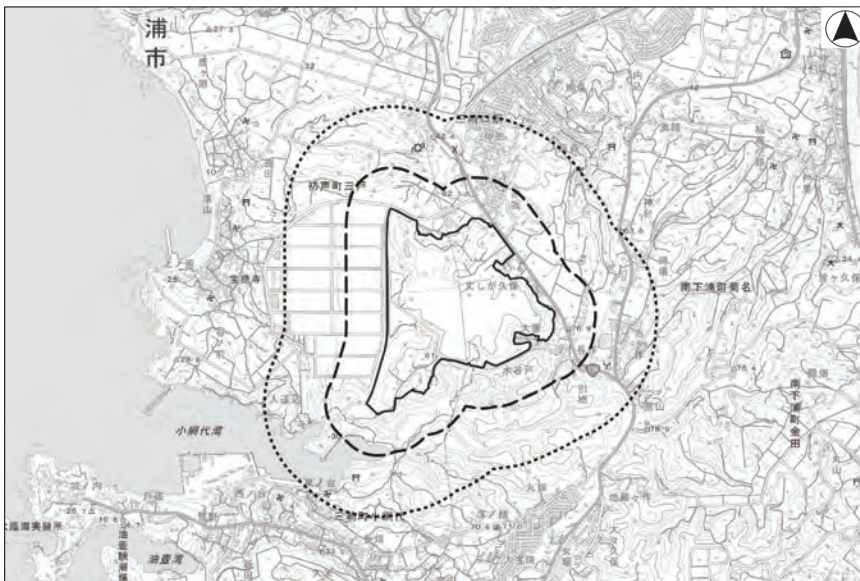
調査項目	調査方法	調査時期
環境類型の区分	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査 又は現地調査（一部、先行調査） 	<ul style="list-style-type: none"> 入手可能な最新の資料等
注目種・群落集の状況	<ul style="list-style-type: none"> 植物、動物及び水生生物の調査結果と下記「注目種・群集等の状況」の調査結果に基づき、解析、抽出する 	<ul style="list-style-type: none"> 植物、動物、水生生物と同様
	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画等により把握する 	

【文化財】

調査項目	調査方法
文化財の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のものの）
文化財の周辺の状況	

調査地点

【現地調査】



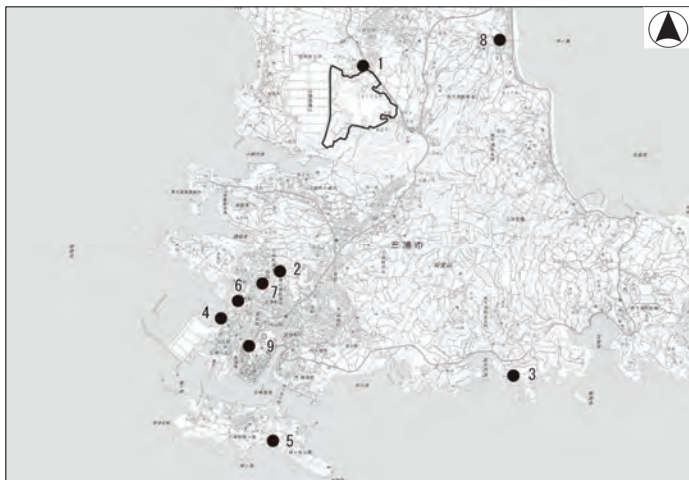
凡例

- 実施区域
- 動物調査範囲（予測範囲）
- 植物、水生生物調査範囲（予測範囲）

調査地点

【既存資料調査】

(指定文化財)



- 凡例
- 実施区域
 - 史跡・名勝・天然記念物

(埋蔵文化財)



【景観】

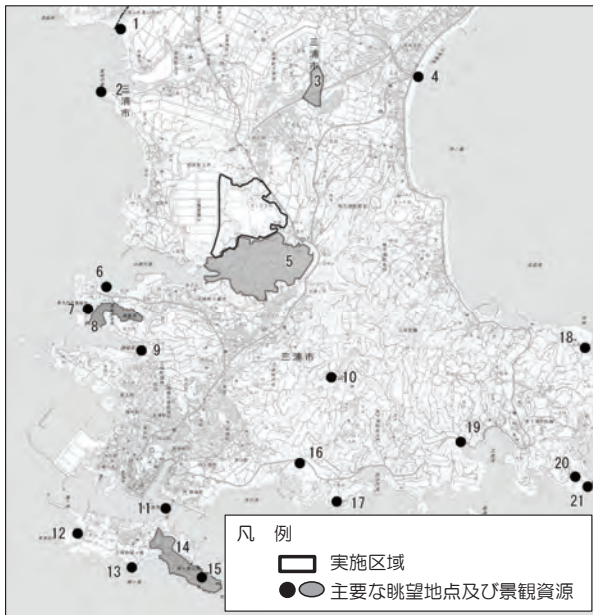
調査項目	調査方法
主要な眺望地点及び主要で身近な視点の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存資料調査 (入手可能な最新のもの) ・ 現地調査 (必要に応じ周辺住民への聞き取り)
景観資源の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存資料調査 (入手可能な最新のもの) ・ 必要に応じ現地調査
主要な眺望景観及び身近な景観の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査 (写真撮影)

【レクリエーション資源】

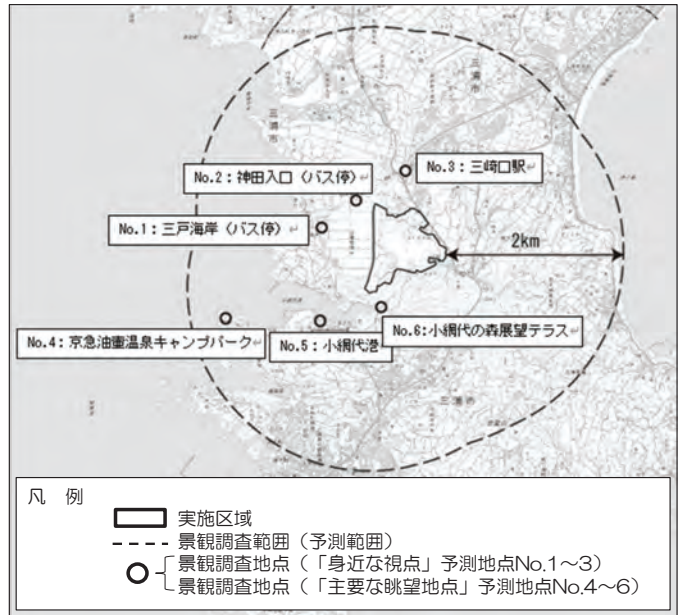
調査項目	調査方法	調査時期
レクリエーション資源の位置、種類、規模、特性等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存資料調査 ・ 現地調査 (一部、先行調査) 又は聞き取り調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入手可能な最新の資料等
レクリエーション資源の利用状況		
レクリエーション資源の周辺の状況		

調査地点

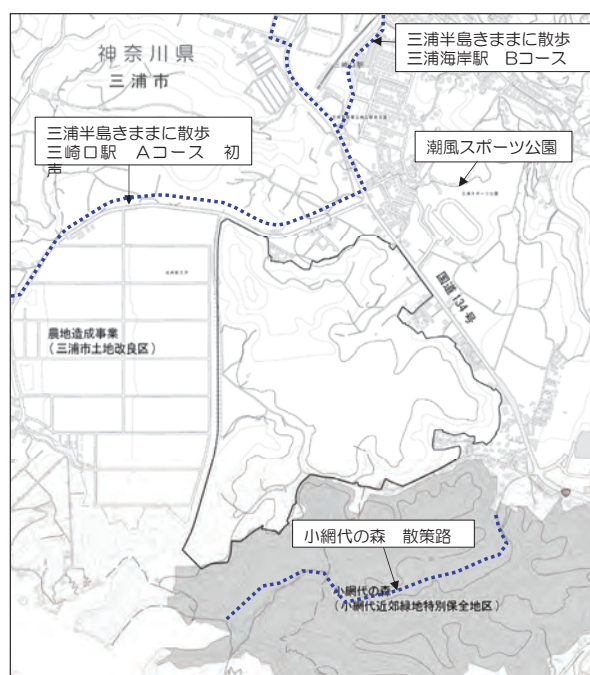
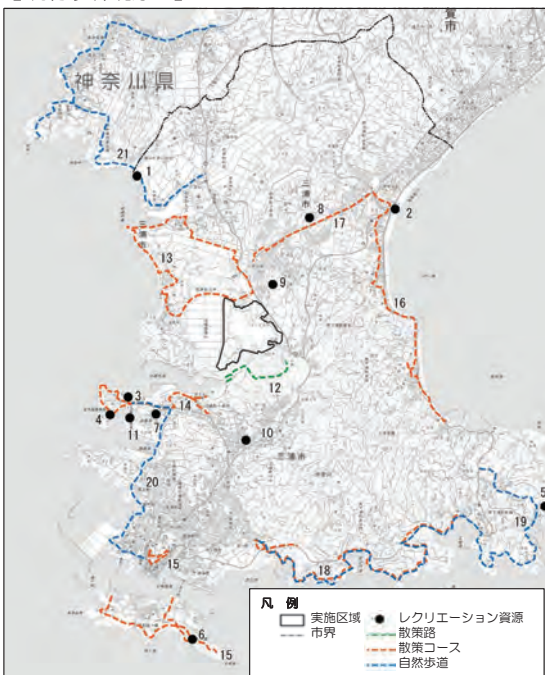
【既存資料調査】



【現地調査】



【既存資料調査】



【温室効果ガス】

調査項目	調査方法
対策の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査 必要に応じて現地調査および関係機関への聞き取り調査
実施区域周辺のエネルギー資源の状況	
法令等による基準等	

【安全】

調査項目	調査方法	調査時期
道路等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 	
交通量の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 	<ul style="list-style-type: none"> 平日、休日に各1回(24時間)
	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査（交通量等） 	
通学路等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料調査（入手可能な最新のもの） 必要に応じて現地踏査、聞き取り調査 	
交通安全施設、交通安全対策等の状況		

調査地点（安全）

【既存資料調査】



- 凡例
- 実施区域
 - 市界
 - 一般国道（指定区間外）
 - 県道（主要地方道）
 - 県道（一般県道）
 - 市道
 - 交通量観測地点
 - Ⓜ 路線番号

【現地調査】



- 凡例
- 実施区域
 - 主要幹線（国道）
 - 工事用車両の主な走行ルート
 - 関連車両の主な走行ルート
 - 交通量調査地点（予測地点）(No.1～2)

予測及び評価の手法

各項目の環境影響について、調査結果及び工事計画を踏まえて、類似事例・学術文献の引用又はシミュレーション等により予測を行います。

各項目の環境影響が実行可能な範囲内でできる限り回避もしくは低減されているか又は必要に応じてその他の方法により環境の保全等についての配慮が適正になされているかどうか、さらに基準値等が定められている場合には予測結果との間に整合が図られているかを評価します。

8. 先行調査の活用についての妥当性の確認

1. 先行調査の概要

- 本事業では、約5年前の2018年～2019年に行われた「現行の発生土処分場の事前調査結果（本事業範囲含む）」＝「先行調査」の活用を想定しています。
- 先行調査の県技術指針における取り扱いは、以下のとおりです。

「実施計画書又は条例方法書を作成する時点で、既に実施区域等の環境の特性の把握に必要な調査等と同等の調査を実施した場合（おおむね過去5年の間に実施した調査）は、実施した調査結果について実施計画書又は条例方法書の作成に活用できるものとする。また、この調査結果についても、対象事業の実施区域等の環境の変化について検討した上で予測評価書案又は条例準備書の作成に活用できるものとする。」
- 先行調査の活用についての妥当性の確認状況は、次ページ以降に示すとおりです。

1. 先行調査の概要（先行調査の内容）

- 実施計画書で現況調査を実施する評価項目としては、大気汚染、水質汚濁、騒音振動、水象（地下水）、動植物、景観、安全を予定しています。
- 各項目の活用の妥当性について、先行調査時から現在までの環境変化の状況を確認し、検討しました。

項目	先行調査の概要
調査時期	2018年～2019年
妥当性を確認する評価項目	大気汚染、水質汚濁、騒音振動、水象（地下水）、植物、動物、水生生物、景観、安全
調査範囲	本事業の実施区域及びその周辺 （植物、水生生物：周囲約500m） （動物：周囲約200m）

2. 先行調査の活用検討（調査時期）

- 先行調査時期（2018年～2019年）は、条例に基づく環境影響評価手続きが行われた発生土処分場事業の終盤（事業完了2020年6月）であり、現行の発生土処分場事業の開始前でした。
- 先行調査時における発生土処分場事業の土砂搬入量は全体の9割以上が完了、車両台数は約150台/日でした（現行の発生土処分場は約300台/日程度）。
- なお、国道134号の先行調査時と最新の交通センサスの交通量は、大きな変化はみられませんでした。

- 先行調査時（2018年）：約13,700台/日（12h）
- 最新道路センサス（2021年）：約12,600台/日（12h）



59

2. 先行調査の活用検討（実施区域の状況）

- 先行調査前・後の実施区域の状況は、写真に示すとおりです。先行調査時の土砂搬入は概ね完了、2020年の事業完了にむけて沈砂池などの整備が進められている状況でした。



2017年4月



2018年3月



2020年2月

工事内容		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
発生土処分場事業	条例アセス	■															
	現行										■	■	■	■	■	■	■

先行調査期間 (2018-2019)

60

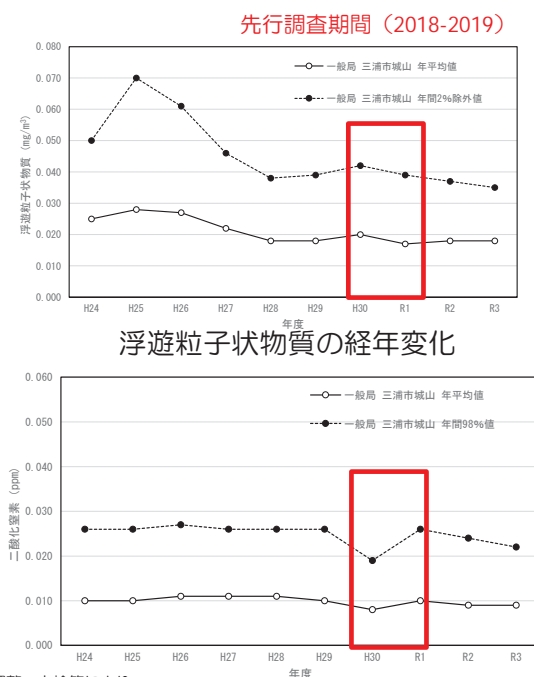
2. 先行調査の活用検討（大気汚染）

- 先行調査地点は、保全対象（住宅等）が多い北～東～南側に設定しました。
- 先行調査時から住宅等の分布状況や道路構造などに変化はみられません。
- 三浦市内には一般環境大気測定局である城山測定局があり、経年変化は減少～横ばい傾向です。
- 先行調査時と最新の交通センサスの交通量に大きな変化はみられず、また交通量は、今後現況調査を行い、最新データを収集する予定です。
- 以上のように、大気汚染に係る先行調査時からの大きな環境の変化はみられないことから、先行調査を活用することは妥当であると考えます。



61

2. 先行調査の活用検討（大気汚染）



※H30は、測定機器の調整・点検等により年間における測定時間が6000時間に満たない測定値を示す。

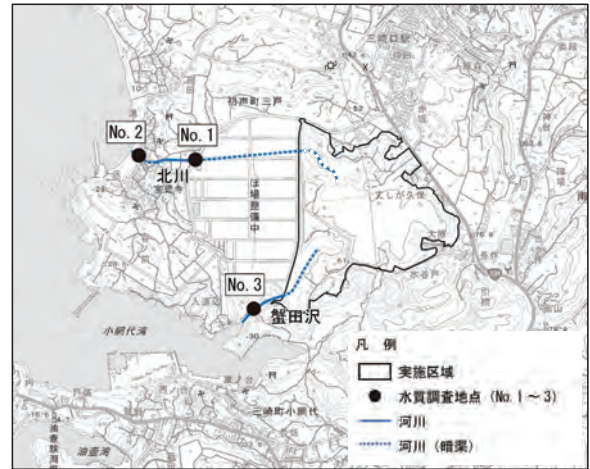
二酸化窒素の経年変化



62

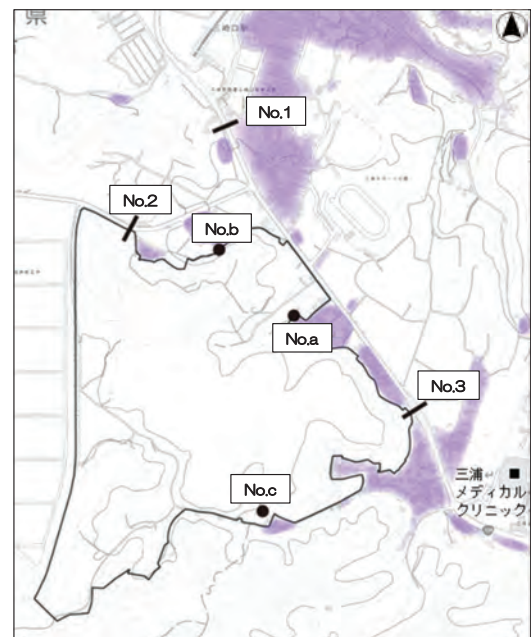
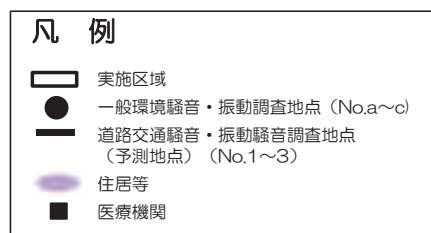
2. 先行調査の活用検討（水質汚濁）

- 先行調査地点は、北川の暗渠排出口及び蟹田沢地点に設定しました。
- 先行調査時は、発生土処分場事業の終盤で、土砂搬入は概ね完了、適切に濁水処理が行われていました。
- 蟹田沢地点では、先行調査時から集水域に変化はなく、条例に基づく環境影響評価手続きの事後調査では流量の調査が行われており、大きな変化はみられていません。
- 以上のように、水質汚濁に係る先行調査時から大きな環境の変化はみられないことから、先行調査を活用することは妥当であると考えます。

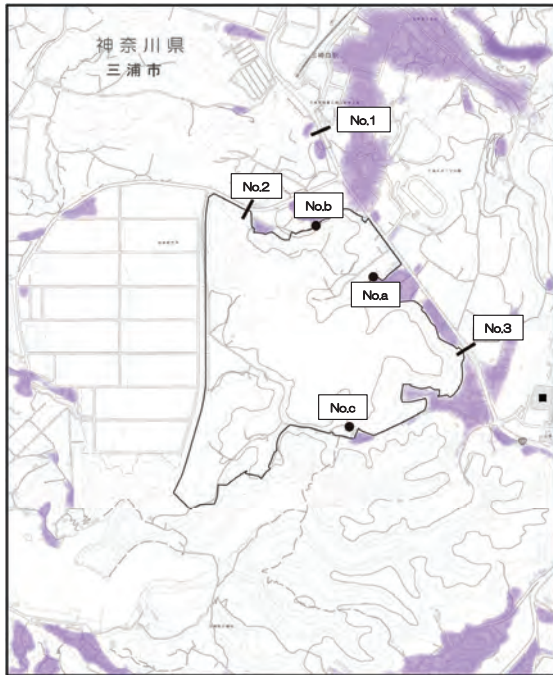


2. 先行調査の活用検討（騒音・低周波音（騒音）、振動）

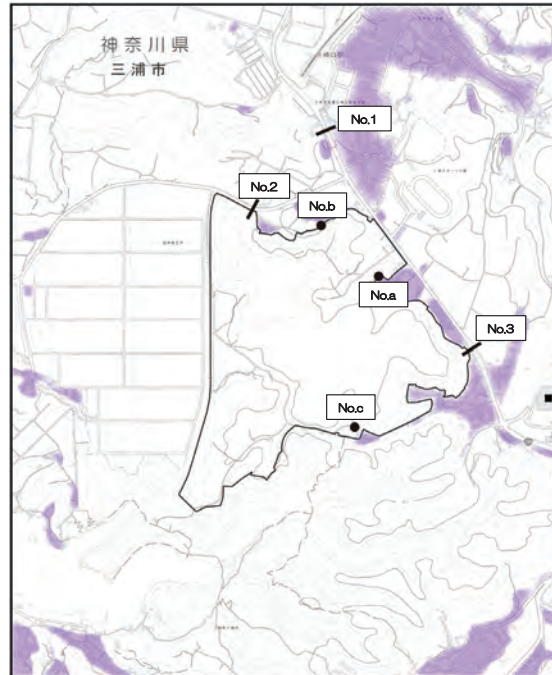
- 先行調査地点は、保全対象（住宅等）が多い北～東～南側に設定しました。
- 先行調査時から住宅等の分布状況や道路構造などに変化はみられません。
- 先行調査時と最新の交通センサスの交通量に大きな変化はみられず、また交通量は、今後現況調査を行い、最新データを収集する予定です。
- 以上のように、騒音振動に係る先行調査時から大きな環境の変化はみられないことから、先行調査を活用することは妥当であると考えます。



2. 先行調査の活用検討（騒音・低周波音（騒音）、振動）



先行調査時（2019年）の住宅等の分布



現在（2023年）の住宅等の分布

凡例	
	実施区域
	一般環境騒音・振動調査地 (No.a~c)
	道路交通騒音・振動騒音調査地点 (予測地点) (No.1~3)
	住居等
	医療機関

2. 先行調査の活用検討（水象（地下水））

- ・ 先行調査地点は、実施区域内に設定しました。
- ・ 実施区域の一部では、発生土処分事業が進められていますが、先行調査時から地下水涵養源となる流域に変化はみられません。
- ・ 先行調査時から流域内で新たな地下水の利用や汲み上げ等を行われていません。
- ・ 以上のように、地下水に係る先行調査時から大きな環境の変化はみられないことから、先行調査を活用することは妥当であると考えます。



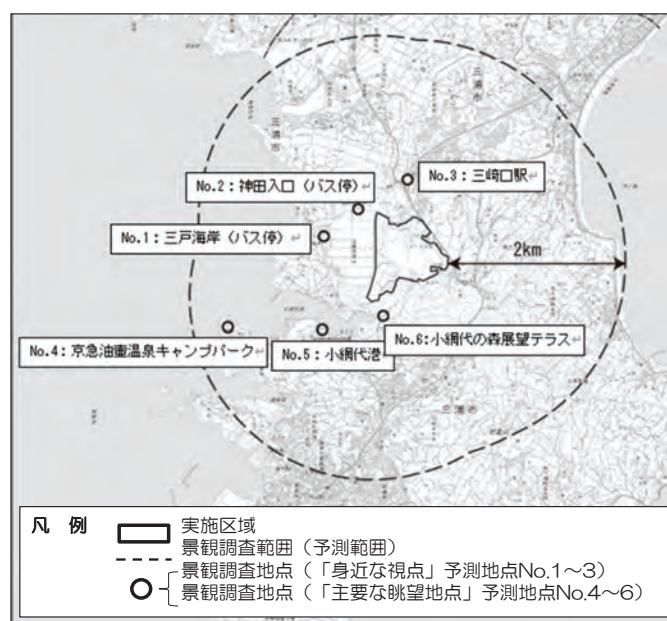
2. 先行調査の活用検討 (植物・動物・生態系 (動物：哺乳類、両生爬虫類、昆虫類等)、水生生物)

- 先行調査の範囲は、事業区域及びその周辺として動物は約200m、水生生物は約500m範囲に設定しました。
- 先行調査時と現況を比較すると、実施区域の一部では新たな裸地や造成草地等への植生変化がみられるものの、全体の生物相や重要な種、これらの生息状況に大きな変化はないものと考えます。
- 以上のように、先行調査時から大きな環境の変化はみられないことから、動物相（鳥類除く）に係る先行調査を活用することは妥当であると考えます。

調査項目	調査回数
哺乳類	冬、春、夏、秋季の計4回
爬虫類	夏季2回、秋季1回の計3回
両生類	春、夏、秋季の計3回
昆虫類	春、夏、秋季の計3回 (複数している季節あり)
その他の無脊椎動物	春、夏、秋季の計3回
水生生物	春、夏、秋、冬季の計4回

2. 先行調査の活用検討 (景観)

- 先行調査の地点は、実施区域の周辺2km範囲の主要な眺望地点及び身近な視点を設定しました。
- 先行調査時から現況までの景観を、航空写真などを用いて確認したところ、実施区域周辺では大きく変化していないが、実施区域の一部では、新たな裸地や造成草地等の植生の変化がみられます。
- 以上のように、実施区域の一部の植生変化により、周辺から視認される環境や見え方が変化することから、新たに現況調査を行います。



2. 先行調査の活用検討（安全（交通））

- 先行調査の地点は、実施区域周辺の交差点2地点に設定しました。
- 先行調査時から住宅等の分布状況や道路構造などに変化はみられません。
- 以上のように、先行調査時から大きな環境の変化はみられませんが、予測評価に必要な信号現示等の最新情報を把握するために、新たに現況調査を行います。



凡例

- 実施区域
- 主要幹線（国道）
- 工事用車両の主な走行ルート
- 関連車両の主な走行ルート
- 交通量調査地点（予測地点）（No.1～2）

2. 先行調査の活用検討

調査項目	先行調査の活用	まとめ
大気汚染	○	• 先行調査を活用（交通量は現況調査を実施）
水質汚濁	○	• 先行調査を活用
騒音振動	○	• 先行調査を活用（交通量は現況調査を実施）
水象 （地下水）	○	• 先行調査を活用
植物、動物、 水生生物	△	• 植生、鳥類については、一部現況調査にて補足（実施区域内） • その他については、先行調査を活用
景観	—	• 現況調査を実施
安全	—	• 現況調査を実施

3. その他（事後調査結果の活用）

- ・ 条例に基づく環境影響評価手続きが行われた発生土処分場では、工事完了後の2020年以降も継続して事後調査を行っています。（2023年現在も継続中）
- ・ このため、本事業では、先行調査結果に加え、事後調査結果についても活用します。

	2018			2019			2020			2021			2022			2023			2024			2025					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
発生土処分場1期 (条例アセス)	2020年6月完了																										
事後調査	事後調査（発生土処分場の工事中）									事後調査（事業完了後5年間）																	
ビオトープ 維持管理	維持管理：京浜急行電鉄網									事後調査に係る維持管理（事業完了後5年間）																	
専門家委員会										専門家委員会（事業完了後5年間）																	

※ビオトープの維持管理に関しては、事業完了後5年間経過後も、適切に行っていくことを検討します。

事後調査項目	活用内容
水質汚濁	水質調査地点の最新の水質状況
動物・植物・生態系	ビオトープの動物相の確認、重要な植物の生育状況
水質、流速等	ビオトープの最新の流量の確認

4. まとめ

- ・ 大気汚染、水質汚濁、騒音振動、水象（地下水）については、先行調査を活用することは妥当であると考えます。
（現地の最新の状況は、現地踏査等で確認します）
- ・ 植物、動物については、一部項目で先行調査を補足する現況調査を行います。景観、安全については、現況調査を行います。
- ・ 先行調査の他、2020年以降継続して行っている事後調査結果についても活用します。

先行調査結果 概要

大気質

調査項目	調査項目	細目	地点・範囲	調査時期	調査結果の概要
大気汚染	一般大気		1地点	4季	浮遊粒子状物質は四季期間平均値が0.020mg/m ³ であり、1時間値の最高値が0.066mg/m ³ 、日平均値最高値が0.036mg/m ³ であった。 二酸化窒素は四季期間平均値が0.009ppmであり、1時間値の最高値が0.053ppm、日平均値最高値が0.015ppmであった。 浮遊粒子状物質、二酸化窒素ともに環境基準を超過する濃度は確認されなかった。
	道路沿道大気		1地点	4季	浮遊粒子状物質は四季期間平均値が0.021mg/m ³ であり、1時間値の最高値が0.070mg/m ³ 、日平均値最高値が0.035mg/m ³ であった。 二酸化窒素は四季期間平均値が0.011ppmであり、1時間値の最高値が0.054ppm、日平均値最高値が0.017ppmであった。 浮遊粒子状物質、二酸化窒素、ともに環境基準を超過する濃度は確認されなかった。
	降下ばいじん		3地点	4季	調査結果は、0.35～3.19 t/km ² /月であり、季節、地点による変化が見られるが、環境省が発表している粉じんにおける生活環境保全の指標である20t/km ² /月より低い値となっていた。
	気象 (風向・風速)		1地点	1年間	年平均風速は、現地調査地点が3.2m/sであり、最大風速は17.9 m/s (SSW)であった。年間の最多風向は北北東であり、夏季は南南西、秋季から春季にかけては北北東の風が卓越していた。 風向・風速の出現状況は、事業実施区域の北側約500mに位置する三浦地域気象観測所の観測結果と同様の傾向を示していた。

調査項目	調査項目 細目	地点・範囲	調査時期	調査結果の概要
水質汚濁	水質汚濁物質	(平常時) 2地点	平常時 12回	(平常時) 浮遊物質 (SS) は、北川の暗渠の出口地点では1~10mg/L、蟹田川では2.8~24mg/Lであった。 生活環境項目においては、大腸菌群数及び全窒素で河川B類型あるいは湖沼V類型の基準値を上回っていた。健康項目については全項目において環境基準値を下回っていた。
		(降雨時) 3地点	降雨時 2回	(降雨時) 浮遊物質 (SS) は、北川の暗渠の出口地点では19~140mg/L、北川の河口部では12~91mg/L、蟹田川では3.2~9.2mg/Lであった。
騒音	一般環境騒音	3地点	夏季 秋季	等価騒音レベル (L _{Aeq}) は、昼間57~68dB(A)、夜間51~61dB(A)であり、夏季にA地域の環境基準値を上回るレベルとなっていた。秋季の調査結果はA地域環境基準値を下回っていた。
	道路交通騒音	3地点	夏季 秋季	等価騒音レベル (L _{Aeq}) は、昼間60~68dB(A)、夜間53~63dB(A)であり、環境基準値を下回っていた。
振動	一般環境振動	3地点	夏季 秋季	振動レベルの80%レンジの上端値 (L ₁₀) は、昼間30未満~31dB、夜間30dB未満であった。
	道路交通振動	3地点	夏季 秋季	振動レベルの80%レンジの上端値 (L ₁₀) は、昼間37~49dB、夜間30未満~39dBであり、要請限度を下回っていた。
水象 (地下水)	地下水位	1地点	1年間	地下水位の最高水位は、TP+12.414m、最低水位は、TP+11.962mで、平均水位は、TP+12.175mであった。

77

植物（植物相、植生）動物（哺乳類、鳥類）

調査項目	調査項目 細目	地点・範囲	調査時期	調査結果の概要
植物	植物相	事業実施区域及びその 周囲約500mの範囲	秋季 早春季 春季 夏季	調査の結果、123科842種の植物が確認されており、事業実施区域内では重要な種（調査時点での選定基準による）として、コヒロハハナヤスリ、イヌハギ、エビネ、キンラン、イソヤマテンツキの6種が確認された。
	植生	事業実施区域及びその 周囲約500mの範囲	秋季 早春季 春季 夏季	調査の結果、重要な植物群落は11群落が選定されており、事業実施区域内ではイノデータブノキ群落、ヤブコウジースダジイ群落、アカガシ群落が確認された。
動物	哺乳類	事業実施区域及びその 周囲約200mの範囲 (小網代浦の川まで含む)	夏季 秋季 冬季 春季	調査の結果、9科9種が確認されており、重要な哺乳類としてはコビナガコウモリ、ニホンイタチが確認された。
	鳥類	事業実施区域及びその 周囲約500mの範囲	夏季 秋季 冬季 春季	調査の結果、34科61種が確認されており、重要な鳥類としてアオバト、ウミウ、ヒクイナ、コチドリ、チュウシャクシギ、クサシギキアシシギ、イソシギ、ミサゴ、サシバ、ノスリ、フクロウ、ハヤブサ、モズ、ヒバリ、ツバメ、センダイムシクイ、セッカ、アカハラ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、カワラヒワ、アオジが確認された。

※重要な種の選定基準は調査当時の情報に基づく

78

動物（爬虫類、両生類、昆虫類、その他無脊椎動物）

調査項目	調査項目細目	地点・範囲	調査時期	調査結果の概要
動物	爬虫類	事業実施区域及びその周囲約200mの範囲	夏季 秋季 春季 夏季	調査の結果、7科10種が確認されており、重要な爬虫類としては、アオダイショウ、シマヘビ、ニホンマムシが確認された。
	両生類	事業実施区域及びその周囲約200mの範囲	夏季 秋季 早春季 春季	調査の結果、3科4種が確認されており、重要な両生類としては、アズマヒキガエル、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエルが確認された。
	昆虫類	事業実施区域及びその周囲約200mの範囲	夏季 秋季 春季 初夏 夏季	調査の結果、220科1181種が確認されており、重要な昆虫類としては、38種が確認された。 確認された重要種については、別紙の通り。
	その他の無脊椎動物	事業実施区域及びその周囲約200mの範囲	秋季 春季 夏季	真正クモ類としては、調査の結果、25科131種が確認されており、重要なクモ類としては、ワスレナグモ、カネコトタテグモ、キシノウエトタテグモ、コガネグモが確認された。 土壌動物としては、調査の結果、161科309種が確認されており、重要な土壌動物は確認されなかった。 陸産貝類としては、調査の結果、16種42種が確認されており、重要な陸産貝類としては、ナガオカモノアラガイ、ヒメハリマキビ、ウメムラシタラガイが確認された。

※重要な種の選定基準は調査当時の情報に基づく

79

動物（爬虫類、両生類、昆虫類、その他無脊椎動物）

調査項目	内容	
昆虫類の重要な種	トンボ	ヤマサナエ、コシボソヤンマ、サラサヤンマ、シオヤトンボ
	バッタ	ケラ、ウスモンウミコオロギ、アシジマカネタタキ、イソカネタタキ、ショウリョウバッタモドキ
	カメムシ	エサキコムズムシ、フタテンカメムシ
	コウチュウ	アシミソナガゴミムシ、ヨツモンカタキバゴミムシ、オオヨツボシゴミムシ、ルリエンマムシ、ミヤマクワガタ、ヒラタクワガタ、ヤマトタマムシ、フタモンウバタマコメツキ、ヘイケボタル、ヤマトヒメメダカカッコウムシ、キアシクビボソムシ、モモグロハナカミキリ、キイロトラカミキリ、トラフカミキリ、シロスジカミキリ、ハンノキカミキリ
	ハチ	トゲアリ、スギハラクモバチ、フタモンクモバチ、ヤマトアシナガバチ、モンズメバチ、キバラハキリバチ、ナミルリモンハナバチ
	ハエ	ウシアブ
	チョウ	コムラサキ、イチモジヒメヨトウ、キシタアツバ

※重要な種の選定基準は調査当時の情報に基づく

80

調査項目	調査項目 細目	地点・範囲	調査時期	調査結果の概要
景観	景観撮影	6地点	4季 秋季 冬季 春季 夏季	現地にて、主要な眺望点から写真撮影を行った。
安全	交通量	2地点	2回 夏季 秋季	交通量の時間変動として交通量のピークは、国道134号で朝方の8時～9時及び夕方の17時～18時に発生している。市道17号は、交通量が1,100台/日程度と少ないが、夕方の16時～17時にピークが発生している。また、秋季と夏季では、夏季の方が交通量は多く、ピーク時は16～18時に発生する傾向が見られる。